

(報告書)

# 福岡大学初修中国語学習における Moodle<sup>1</sup>の利用

## ー コースデザインから評価まで ー

宮 下 尚 子

### はじめに

小文は2020年に福岡大学共通教育初修外国語の中国語クラスにおいて、筆者が福岡大学の e-learning システム Moodle を利用して行ったコースデザイン、資料および課題（レポートおよび小テスト）の作成、学期末の評価にいたるまでの一連の業務の技術的な知見について記録したものです。今回は一般に初修外国語のコースデザインにおいて必要と思われる次の2点に絞り、業務中に作成使用したマニュアルをまとめました。

- ①小テストの作成および問題ファイル、音声ファイルの取り扱い方法
- ②評価の方法（学内の定期試験などを含んだ最終的な成績評価の自動計算）

### 1. 遠隔授業における Moodle 小テストの利用

Moodle 小テストの利点のひとつは、教員が採点をしなくても学生が受験後、オンライン自動採点によりすぐに結果を知ることができる点にあると思います。教員にとっては自動採点により瞬時に解答状況を把握することができます。成績処理のための時間が節約できるというのはいうまでもなく、授業前に小テストを行うことで、回答率の低い問題について特に授業中に解説することもできます。

また、授業後の復習として導入すれば、学生はオンラインでの自動採点形式を用いて自らの理解度を把握し、自発的に学習をすすめていく助けにもなります。

紙媒体を使わなくて良いという点も、学生にとっては利点が大いのではないのでしょうか。これは遠隔授業を始めてからわかったことですが、自宅にパソコンやプリンタを所有している学生のほうが少なく、特にプリンタを持っている学生は1クラスに3、4名いれば多いほうでした。指定された用紙に単語を書いて提出する、作文

を書いて提出するタイプの問題であると、受講生は、課題や資料がPDF形式で提示される度にダウンロード後、外部の印刷機のある場所まで出かけて費用をかけてプリントアウトを行わなければならないので、10コマ授業を選択していて、1つのクラスで平均して3枚の資料と課題が出た場合、(3枚×10コマ×4週)×@20円=2400円、のように、印刷代だけで1月に2～3000円の出費が必要となります。Moodleで提示された資料や課題が全て印刷不要、というわけではありませんが、少なくともオンライン入力やオンライン解答が可能な課題であれば、機種間の互換性や金銭的な負担を強えずに受講生に学習を促すことができます。

出題に当たっては、簡体字を提示して行うこともできますし、ピンインなど特殊記号の入力にも対応しているので、問題の難易度を上げたいときや、ピンインの習得を目指している段階では、集中的にピンインを使って問題作成することができます。

ただ、日中翻訳や作文などの自由記述の問題では、簡体字やピンインの入力を、どのくらいの学生が出来る環境にあるか把握しづらいという難点があります。コンピュータリテラシーの一環として、中国語簡体字、繁体字のパソコン入力は今後も求められる素養のひとつであることは間違いありません。初修外国語教育の1年目という早い段階から、中国語簡体字、繁体字入力に慣れておくのも悪いことではないと思います。

ピンイン入力については、ウィンドウズでは外部ソフトを用いなければならないので、自分のやりやすいピンイン入力方法を見つけるまでが大変です。Moodleの小テストの解答を入力するレベルだと、ソフトを立ち上げて簡体字を入力してAIにルビをふらせてコピーして解答欄にペーストする、という作業が果たしてどの程度中国語の能力向上に役立つのか、そもそも外部の自動拼音ふりつけソフトを利用する時点で、カンニングとの境界が大変あいまいなので、ピンインを書かせる記述問題は積極的には出題しないようにしています。

<sup>1</sup> Moodle (ムードル) とは、正式名称を Modular Object-Oriented Dynamic Learning Environment といい、オーストラリアのカーティン工科大学教授によって、社会的構築主義的教育原理に基づいて開発されたオープンソースのeラーニングマネジメントシステムです。福岡大学では2020年9月現在、バージョン3.5.8を使用しており、小文の記述もそのバージョンに基づいています。

小テストの出題に当たり、受験や採点の設定には後述するようにたくさんのパターンが想定されているので、受講生のニーズにより受験や採点形態を変更することも容易です。また、直後に結果を知ることができるので、理

解が困難な単語や文法項目について知ることができ、復習を強化したり、次の授業に備えて、オンラインやメールでの質問も具体的にやりやすくなったり、あるいは次の授業時間中に教師に質問したりできるようになります。

## 2. 小テストの作成

Moodleの小テストには、様々な問題形式が設定されていますが、ここでは、初修中国語の学習過程で利用できそうなものとして、以下のようなものが考えられます。

まず、moodleで小テストを作成するには、「編集モードの開始」を実行します。編集モードの開始後、トピック内の「活動またはリソースを追加する」をクリックして表示される活動あるいはリソースの一覧から「小テスト」を選択して「追加」をクリックします。

小テストの設定画面が開くので、「一般」>「名称」欄にテストの名称および必要があれば「説明」欄に説明を入力します。

必要があれば、「タイミング」欄で、「テスト公開日時の設定」ならびに「制限時間の設定」ができます。

「評点」では、受験回数の設定と、評点の方法を設定できます。デフォルトでは、受験回数の制限なし、最高得点のみが記録されるようになっています。

「問題の挙動」で、問題内部をシャッフル（毎回出題される問題の順番が異なる）するかどうか、解答送信後の採点のタイミングについて選択できます。



（表：「問題の動作」において選択できる採点タイミングとペナルティ）

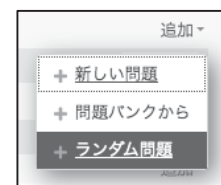
アダプティブモード	次の問題に進む前に複数回の受験ができます。答えが間違っているでも正解になるまでやり直すことができます。ただし、答えを一度間違えるごとにペナルティが発生します。
アダプティブモード （ペナルティなし）	答えが間違っているでも正解になるまでやり直すことができます。ペナルティは発生しません。
即時フィードバック	各問ごとにすぐ解答を知ることができます。ペナルティなし。
即時フィードバック（CBM）	CBM とは certainty based making（確実性に基づくマーキング）の略。解答の際に、およそ三段階で自分の答えにどの程度の確実性があるかを入力する必要がある。最も確実性が高いと答えた場合、正解時の点数は三倍になるが、不正解の場合のペナルティも三倍になる。各問ごとに確実性をマーク、正答をチェックする必要がある。
遅延フィードバック	全ての問題の解答を完了、送信後に採点結果を知ることができる。
遅延フィードバック（CBM）	解答時に解答に対する確実性がどの程度かをマークする。全問終了後に採点され、確実性の程度により、正解時の点数は加算され、不正解の際のペナルティも大きくなる。
複数受験インタラクティブ	全問を通じて解答のチェックならびに複数回の受験が可能です。「送信する」を押すまで何度でもやりなおしができます。

### 3. 問題の追加

小テスト作成時に、問題をどのように追加するのか moodle がたずねてきます。

「新しい問題」を指定すると、問題を新しく一から作る必要があります。

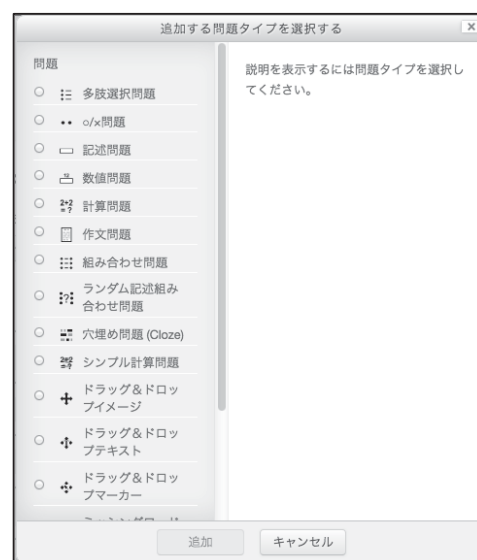
単語のピンインを答えさせたり、並び替えなど、似たタイプの問題を連続していくつか作成する場合は、「問題バンクから」を選ぶと、似たタイプの問題をコピーしたものを修正したり手を加えて問題を作成できるので、一から問題を作成するよりも簡単に問題を作成することができます。



### 4. 問題のタイプ




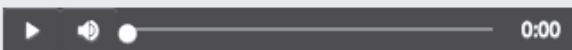
問題を新しく作成する場合、右のような画面で予め追加する問題のタイプを指定する必要があります。

中国語学習の特性を考慮した場合、「記述問題」および「作文問題」の有用性は非常に高いと思いますが、moodle の問題にアクセスする受講生の機器の環境を考えた場合、全ての学生が中国語の簡体字を入力できる環境からアクセスしているのかは何とも言えません。例えば、図書館やパソコン教室の共通パソコンを利用して解答しているかもしれません。スマートフォンであれば、iOS でも Android でも中国語キーボードの利用はできるようなので、受講生の環境次第ではこれらの問題に解答することも可能でしょう。



中国語の学習に有効と思われるものに限って説明します。

<p>⋮ 多肢選択問題</p>	<p>所定の一覧より単一または複数の解答を選択します。</p> <div> <div>問題 1 未解答 最大評点 1.00</div> <div> <p>( ) にふさわしい語をえらびなさい。</p> <p>A : Nǐ shì ( ) ?</p> <p>B : Wǒ shì Riběnrén.</p> <p>1つ選択してください:</p> <p><input type="radio"/> a. jǐ niánjī de xuésheng</p> <p><input type="radio"/> b. shénme zhuānyè</p> <p><input type="radio"/> c. nǚ guó rén</p> <p><input type="radio"/> d. nǚ ge dàxué de xuésheng</p> </div> </div>
<p>● ○/×問題</p>	<p>選択肢「○」と「×」からなるシンプルな問題です。ピンインの正しさや、文が正しいかどうかを問う問題に適しています。</p> <div> <div>問題 1 未解答 最大評点 1.00</div> <div> <p>üanの前に子音がないときの正しいピンイン表記はwuanである。</p> <p>1つ選択してください:</p> <p><input type="radio"/> ○</p> <p><input type="radio"/> ×</p> </div> </div>
<p>□ 記述問題</p>	<p>自由記述できます。複雑な記号、句読点を必要としないピンインや、単語（簡体字）であれば自動採点もできます。</p> <div> <div>問題 1 未解答 最大評点 1.00</div> <div> <p>複母音üeの前に子音qがきたときの表記は：</p> <p>解答: <input type="text"/></p> </div> </div>
<p>⋮ 組み合わせ問題</p>	<p>複数の語句をマッチングさせます。動詞と目的語の組み合わせや、単語の意味やピンインをいくつかの語句で問う場合に有用です。</p> <div> <div>問題 1 未解答 最大評点 1.00</div> <div> <p>反対の意味になるものをそれぞれ選びなさい。</p> <p>gāo <input type="text" value="✓ 選択 ..."/></p> <p>duō <input type="text" value="duǎn"/></p> <p>cháng <input type="text" value="xiǎo"/></p> <p>dà <input type="text" value="shǎo"/></p> </div> </div>

<div data-bbox="165 495 363 528">  穴埋め問題 (Cloze) </div>	<p>任意の形式で解答選択問題を作ることができます。ひとつの問題の中で、記述、ミッシングワード検索等複数の形式の問題を混ぜて作成することが可能です。自分で簡単なコードを埋め込む必要があります。以下はどちらも「穴埋め問題」の作例です。</p> <div data-bbox="403 376 1404 763"> <div> <b>問題 1</b> 未解答 最大評点 1.00 </div> <div>           日本語訳に合うように、次の（ ）にふさわしい中国語はどれ？            「あなたは（どうですか）？」            你 <input type="text" value="✓"/>            &lt;的&gt;            &lt;呢&gt;            &lt;吗&gt; </div> <hr/> <div> <b>問題 1</b> 未解答 最大評点 1.00 </div> <div>           次の日本語にあうように正しい中国語をいれなさい。            「じゃあわたしたちは一緒に行きましょう」            那我们 <input type="text"/> 去吧。 </div> </div>
<div data-bbox="165 965 363 1021">  ドラッグ&amp;ドロップテキスト </div>	<p>語句をドラッグ&amp;ドロップで空欄に並べて解答する形式の問題です。パソコンの場合は、マウスをクリックしたままドラッグ&amp;ドロップしますが、スマートフォンの場合は、タップして浮き上がった語句を移動させるなど、動きがあって解きやすい問題と言えるでしょう。</p> <div data-bbox="403 936 1404 1160"> <div> <b>問題 1</b> 未解答 最大評点 1.00 </div> <div>           日本語の意味になるようにならびかえなさい。（選択肢に不要な語がひとつあります。）            「彼は誰ですか」  <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> ?  <input type="text" value="吗"/> <input type="text" value="是"/> <input type="text" value="他"/> <input type="text" value="谁"/> </div> </div>
<div data-bbox="165 1406 363 1462">  ミッシングワード 選択 </div>	<p>構造的には、「多岐選択問題」と似ていますが、選択肢が問題文中にタテ表示される点が異なります。一文中にいくつもカラムを作ることができ、選択肢も同じものを使ったり、カテゴリ毎に別の選択肢が準備できるなど、複雑な問題形式にも対応できます。</p> <div data-bbox="403 1323 1404 1653"> <div> <b>問題 1</b> 未解答 最大評点 1.00 </div> <div>           録音を聞いて、下線部に適当な語を選びなさい。   0:00            我 <input type="text" value="選択 ..."/> 是 <input type="text" value="選択 ..."/>, 我 <input type="text" value="選択 ..."/> 是 <input type="text" value="✓ 選択 ..."/> <div>             公务员              公司职员              售货员              护士              爸爸              妈妈 </div> </div> <div> <input type="button" value="再開する"/> <input type="button" value="保存"/> <input type="button" value="正解を表示する"/> <input type="button" value="送信して終了する"/> <input type="button" value="プレビュー"/> </div> </div>

以上のように、Moodle では、記述式問題の作成をはじめ、語学のテストで通常よく用いられる、穴埋めによる多岐選択式の問題、○か×かを問う問題、並べ替えなどの一般的な問題に対応しています。また、音声ファイルを使うことでリスニング形式の問題を作成することもできます。

## 5. 音声ファイルやメディアを利用する

ここでは、小テストの問題に音声ファイルを挿入する方法について説明します。

(1) moodle の「新しい問題を追加する」→問題テキスト の画面を出します。



(2) 上部のアイコンの  をクリックします。

(3) 「サウンド、ビデオまたはアプレットを探すまたはアップロードする…」ボタンをクリックします。



(4) 「ファイルピッカ」というウィンドウが開くので、「選択」ボタンを押して、お使いのコンピュータのファイルを探しにいきます。



(5) 「ファイルのアップロード」というウィンドで、挿入するサウンドファイルをクリックして選択します。



(6) さきほどの「ファイルピッカ」というウィンドウに、選択したファイル名が表示されているのを確認して、「このファイルをアップロードする」という **青いボタン** をクリックします。

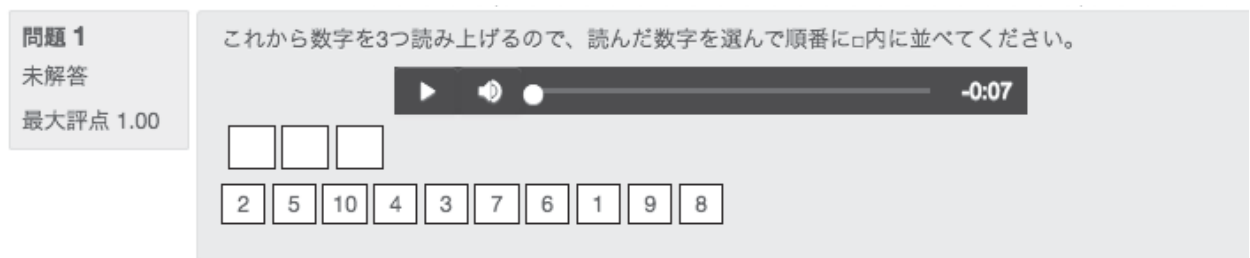
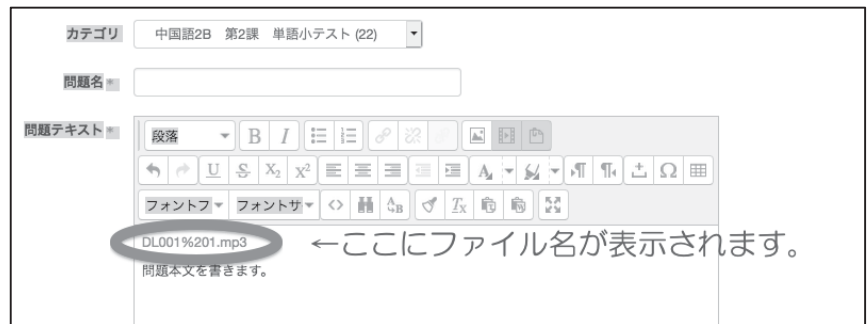




「moodle メディアを追加する」ウィンドウにサウンドファイル操作画面が表示されます。  
→「挿入」ボタンをクリックします。



問題作成画面に戻り、問題本文中にサウンドファイルが挿入されたことを確認します。



問題のプレビュー画面です。リスニング形式の問題が作成されました。受験者は、▶を押すことで何度でも音声を聞くことができます。

Moodle のデフォルトのプレイヤーでは、mp3 の他に、.aac、.flac、.m4a、.oga、.ogg、.wav 等の形式がサポートされているようです。.wav はパワーポイントで搭載されると、通女の Macintoshu ではアドオンがなければ再生することができませんが、Moodle に組み込まれた場合、パーソナルコンピュータで再生されるのではなく、Moodle で再生されたものをパーソナルコンピュータで聞くことになるので、機種間の互換性の問題はクリアされているといえそうです。

オーディオについては、<https://moodle.org/>の以下の頁も参照してください。

<https://docs.moodle.org/3x/ja/%E3%82%AA%E3%83%BC%E3%83%87%E3%82%A3%E3%82%AA>

Moodle のマルチメディアプラグインについての解説は以下もご参照ください。

<https://docs.moodle.org/19/ja/%E3%83%9E%E3%83%AB%E3%83%81%E3%83%A1%E3%83%87%E3%82%A3%E3%82%A2%E3%83%97%E3%83%A9%E3%82%B0%E3%82%A4%E3%83%B3>





## 7. コース間の問題の移動について（「問題バンク」の利用）

前項では、問題バンクによって問題が管理されることを確認しました。ここでは、コース間にまたがる問題（実際には、問題が問題バンクごと移動する）の移動についてどのような方法があるかを確認します。

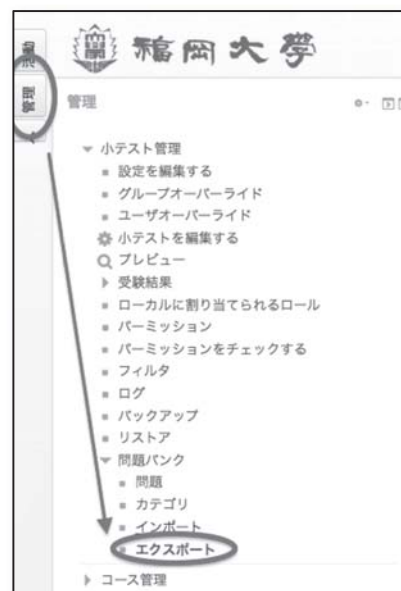
同じ履修内容のクラスを複数個管理する場合、Moodle のコースはひとつにしてクラスごとの「分離グループ」で管理する場合と、クラス毎に Moodle のコースを設定する場合の二つのやり方があると思います。

**Moodle のコースを複数個管理する場合、バックアップしたものをリストアでコースにもどす以外は、課題や小テストのコース間の移動はおそらくできないので、「エクスポート」機能を使ってコース間の課題や資料のやりとりをすることになると思います。**編集権限のある教師の場合、「問題バンク」の「エクスポート」「インポート」を用いてコース間で問題の移動を行うことができます。ここでは、そのやり方について簡単に説明します。

(1) 問題をエクスポートしたいコースを表示します。

(2) 「管理」→「問題バンク」→「エクスポート」

（注：「編集権限のない教師」の場合、「問題バンク」を編集することはできません。その場合、出力済みの問題ファイルを共有フォルダ等アクセスしやすい場所に置くことでエクスポートの手間を省くことができます）



(3) 「問題をファイルにエクスポートする」画面になります。

(4) フォーマットを選び、「問題をファイルにエクスポートする」赤いボタンをクリックします。（ダウンロードが始まります。通常は、お使いのコンピュータのダウンロードフォルダに、「questions-2020 中国語 IAB （通年）-2020 中国語 IAB- 20200905-0054.xml」のような.xml ファイルが作られます。

このファイル名は、.xml のタグさえ変えなければ、もっとわかりやすいものに変更してもかまいません。

(5) 御自分の管理しているコースを表示します。上記2と同じように、左端のバーから、「管理」→「問題バンク」→「インポート」を選択します。



(5) 次に、自分の管理するコース（問題をインポートしたいコース）へ行き、右上端の「編集モードの開始」ボタンをクリックします。



(7) 問題を作りたいトピックで、「+活動またはリソースを追加する」→「小テスト」→「追加」ボタンをクリックします。



(8) 小テストに名前をつけます↑。

(9) この画面を下までスクロールして、「保存して表示する」をクリック。

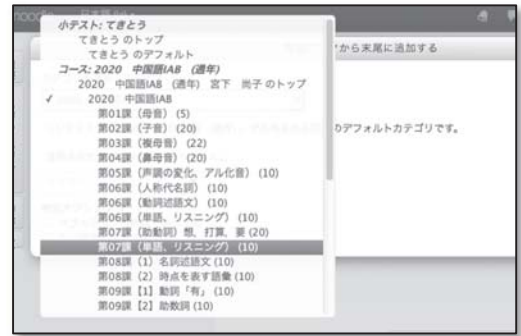
(10)画面が変わります。「小テストを編集する」をクリックします。

(11) 画面が変わります。「追加」ポップアップボタンをクリックします。

(12) ポップアップメニューが出るので、「問題バンクから」を選びます。

(13) 「問題バンクから末尾に追加する」というポップアップウィンドウが出ます。

- (14) 「カテゴリ」ポップアップメニューから、先ほどインポートしたカテゴリを選択します。



- (15) 使いたい問題のチェックボックス☐にチェックを入れて、「選択した問題を小テストに追加する」をクリックすれば、問題が課題に追加されます。以上でおしまいです。

Moodle の小テストは、自動的に採点、記録されます。課題を行う回数、タイミング(問題開設から終了までの時期)、解答の表示の仕方(2「小テストの作成」を参照してください)は、問題の設定前も設定後も随時変更、調整できます。

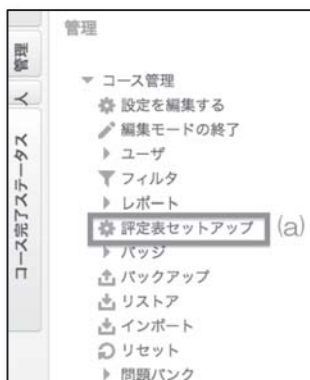
## 8. Moodle 評価表の利用

ここでは、Moodle を利用した学期末の評価集計について説明します。

各コンテンツ(評価対象となる各項目)でつけた評点の集計には、「コース管理」内の「評価」において表示される評価表(評価者レポート)を使います。評価表は、「評価表セットアップ」において設定を行うことができます。ここで挙げるのは、各評価項目(課題や小テスト)の評点を集計して合計を算出するための方法の一例です。

### 8.1 「評価集セットアップ」を表示する

「コース管理」から「評価集セットアップ」(a)を選択します。「評価集セットアップ」(b)という画面に移ります。評価に利用するこれまでに実施した課題や小テストが一覧できます。「満点」の行には、各課題や小テストのそのときに設定された満点が表示されます。「操作」の行で、各課題の評点の比重を変更することができます。



各活動(小テストや課題)の右端にある「編集」(c)をクリックして「設定を編集する」を選択後、「評価項目」(d)の編集ができます。

## 8.2 「設定項目」の表示

「設定項目」(d) の画面では、まず「ロック」(e) が有効（チェック）になっていることを確認したほうが良いでしょう。ここがチェックされていないと評点集計中あるいは集計後に受講者が課題をやりなおして、点数が更新されてしまうかもしれないからです。受講者には、締切を告げた上で課題をロックします。

次に、「更に表示する」(f) というハイパーリンクをクリックして、残りの設定項目を出します。

「乗数」(g) のところに、課題にかける数値を入力します。デフォルトでは0.00になっています。評点を加算する際に、自然（評点の単純合計）を選択した場合、各課題の点数にこの乗数をかけた数値が実際の加算点になります。

例えば、満点10点の小テストを10回行って、小テストの全体に対する配点が10%であった場合は、0.1を入力します。小テストの毎回の点数が8点であったとすると、 $8 \times 10 \times 0.1 = 8$  により、8点が全体の点数に加算されます。

実際は、平均点乗数は全ての課題で同一でなければならないわけではなく、各課題の配点や重要性によって異なる数値を入力することもできます。

なお、「**評定集セットアップ**」の最終行に表示される**評定項目** (h) のところに、「空白の評点を含む」と記入されていることを確認します。表示されていない場合、空白の評点が評価に含まれないことになり、つまり、受講者が課題を実施しなかった場合、点数がゼロ点としてカウントされずに平均値が高く計算されることになります。（「**評定表セットアップ**」→「**カテゴリを編集する**」→「**評定カテゴリ**」において、「空白の評点をのぞく」というチェックボックスはデフォルトでチェックが入っているので、これを解除します）

## 8.3 評定計算の設定

### 8.3.1 計算画面を出す

**評定項目** (h) の右端の「**編集**」を選択することで、評定の細かい計算方法（**評定計算**）を変更することができます。評定計算は評定の決定に使用される公式です。公式は等号(=)で始まり、max、min および sum のような一般的な数学演算子で記入することができます。必要であれば、二重角括弧に入れた ID ナンバーを使用することで他の評定項目を計算に含むことができます。(i)

### 8.3.2 評価計算によく用いられる関数

評価計算によく用いられる演算関数の公式は以下の通りです。（全ての関数は等号「=」で開始します。項目の ID (引数) は角括弧「[]」で区切られる必要があり、引数同士、あるいは関数はカンマ（,）で区切られます。引数の終わり

は、丸括弧で閉じます。)

関数とその用例	説明
=sum([[item1]], [[item2]]...)	すべての引数の合計を返します。
=average([[item1]], [[item2]]...)	サンプルの平均を返します。
=max([[item1]], [[item2]]...)	引数のリストの中から最大値を返します。
=min([[item1]], [[item2]]...)	引数のリストの中から最小値を返します。
=mod(dividend, divisor)	除算の剰余を計算します。

なお、「評価項目」で「計算を編集する」リンクを表示するには、「評価者レポートプリファレンス」の「計算を表示する」(j)において「yes」があらかじめが選択されていなければなりません。

### 3.3 計算結果の確認

最後に、「評価者レポート」において評価の総計を確認します。画面を右方へスクロールすることで、全ての課題とその評点を知ることができます。最右方に総計が表示されるので、確認します。

この時点で、総計や課題の配点等に誤りがある場合は、課題の最大配点、乗数、計算方法などをもういちどひとつずつ確認する作業を行ってください。

氏名	課題名	得点	合計	割合
〇〇〇〇	中国語1A2020前期	82.50	82.50	82.50 %
〇〇〇〇	中国語1A2020前期	89.97	89.97	89.97 %
〇〇〇〇	中国語1A2020前期	87.28	87.28	87.28 %
〇〇〇〇	中国語1A2020前期	76.61	76.61	76.61 %
〇〇〇〇	中国語1A2020前期	93.50	93.50	93.50 %
〇〇〇〇	中国語1A2020前期	88.03	88.03	88.03 %
〇〇〇〇	中国語1A2020前期	93.47	93.47	93.47 %

## 8.4 Moodle 以外で行った課題や定期試験等の評価管理

Moodle 内で行った小テストや課題を利用した評価の全体的な評点の流れは以上になりますが、ここでは、Moodle 以外で行った学内の定期試験や、音読のテストなどのパフォーマンスを追加する方法について説明します。

### 8.4.1 評価項目を追加する

1の図(a)(b)と同様、「コース管理」から「評価集セットアップ」を選択後、画面下にある「評価項目を追加する」をクリックして、新しく追加する評価項目の設定画面を表示します。

「管理」→「コース管理」→「設定を編集する」を選択します。



「**評価集セットアップ**」画面に移りますので、画面下の「**評価項目を追加する**」ボタン（4a）をクリックします。

→評価項目の設定画面が開きます。

「項目名」(4b)と「最大評点」(4c)を記入、確認し、「変更を保存する」をクリックします。

→新しい評価項目（「定期試験」）が追加されます。

#### 8.4.2 評価を入力する

##### 8.2.1 「管理」から「評価者レポート」を表示します。

8.2.2 画面右上の「編集モードの開始」をクリックして、編集可能な状態にします（空白の数値入力用カラムが表示されます）。

8.2.3 新しく追加した評価項目（ここでは、「定期試験」や「音読試験」など）に評点を加えます。入力後は、「変更を保存する」ボタンで保存します。

##### 8.2.4 画面右上「編集モードの終了」をクリックして編集を終了します。

### 8.5 受講生による評価表の確認（受講生に評価結果を表示する）

ここでは、受講生が各自の評価表（ユーザーレポート）を確認できるようにする設定について説明します。また、逆に受講生に評価結果を見せないようにする方法についても説明します。

#### 8.5.1 「管理」→「コース管理」→「設定を編集する」→「アピアランス」

#### 8.5.2 「アピアランス」の設定確認

「アピアランス」欄の「学生に評価表を表示する」が「yes」になっていることを確認します（ここは通常デフォルトで「yes」になっています。ここを「No」に変更すると、受講生から評価結果を見えないようにすることができます）。

画面下の「保存して表示する」をクリックして設定を保存します。



#### 8.5.3 確認

ロールを学生に変更します。「管理」ブロックに「評価」が表れ、選択するとコース内での自分の評価を一覧できる「評価表」が表示されます（教師ロールの時は、ここに全受講生の評価表が表示されます）。



評価項目	計算済み加重	評価	範囲	パーセンテージ	フィードバック
中国語1A82020前期	-	-	0-3	-	
復習みしレポート	-	-	0-3	-	
第10課 小テスト	-	-	0-10	-	
課題 学習内容のふりかえりを書きます！ (締切あります)	-	-	0-1	-	
課題 学習内容のふりかえりを書きます！ (締切あります)	-	-	0-1	-	
第10課 小テスト	-	-	0-10	-	
第11課 小テスト	-	-	0-10	-	
中国語1A82020前期	-	-	0-100	-	

受講生による評価表の確認設定は以上です。

### 謝辞

小文は、福岡大学領域別研究チーム（研究チーム名「中国語教育研究班」代表 甲斐勝二教授 研究番号183001）の研究成果の一部です。研究代表の甲斐先生およびメンバー各位、また、Moodle の使用について疑問や問題点を指摘していただいた多くの先生方や受講生の方々には大変お世話になりました。さらに、Moodle を提供していただいた福岡大学情報基盤センターならびに世界の Moodle 開発者支援者の方々にこの場をお借りして、感謝申し上げます。